



廿日市市立佐伯中学校 令和3年度

## 【自律】学校だより

ホームページ <http://www.hatsukaichi-edu.jp/saiki-j/>

学校教育目標：「夢や目標に挑戦し、自己実現を図る生徒の育成」「みんなの笑顔があふれる居心地のいい」学校づくり！

1月号 (No.14)

令和3年

1月13日 (木)

### 3学期「始業式」式辞・「半歩前に目標を！」

皆さん、おはようございます。さて、いよいよ今日から3学期がスタートします。3学期は、まとめの学期とも言われますが、私は次年度に向けての準備に当たる大切な学期だと捉えています。とりわけ、3年生は、高校進学という人生の大きな節目にあたる時期を迎えています。義務教育のまとめと、高校進学へ向けた準備の時期という自覚を持って、一日一日を大切に過ごしてほしいと願っています。

今年寅年です。虎にまつわることわざとして、「虎穴に入らずんば虎児を得ず」があります。チャレンジをしなければ成果は得られません。ですから、日ヲトラ（虎）イ&エラーの精神で取り組んでいきましょう。

それでは、3学期に向けて2つのこととお話します。

1つ目は、「安心・安全な学校をみんなでつくる」ことです。

新聞やテレビなどでは、オミクロン株を中心とした感染症が急拡大し、「第6波」に突入したと報じられています。広島県はレベル2の対応が求められることとなり、国にまん延防止等重点措置を要請している状況（1月7日現在）です。このような状況の中、いよいよ学校が本格的に始まります。学校にコロナウイルスを持ち込ませないためには、当初から言われている「感染症対策を徹底して行うこと」が重要です。

- ・オミクロン株は伝播性が強いわけですから、「換気」することが特に重要になります。暖房が効かないからと窓を閉め切っていると、感染のリスクにさらされます。
- ・正しいマスクの着用、手洗い、検温は大前提です。家庭で毎朝、検温してきてください。熱があったり、調子が悪かったりした場合は、登校を控えてください。マスクを外しての会話、給食の時に話しながら食べるのは言語道断です。黙食を徹底してください。
- ・感染対策の基本は、「3密の回避」です。3密は、コロナが発生した初期の段階からずっと言われてきたことです。3密の回避とは、「密集、密接、密閉」を避けることです。換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、間近で会話や発声する密接場所をつくらないことです。
- ・学校は病院と同じです。学校でクラスターを起こしてはなりません。緊張感を持った言動が、一人一人に求められます。責任のある言動をお願いします。
- ・しかし、感染が急拡大すれば、いつ、誰が感染してもおかしくありません。もしも、感染してしまっても、決してその人を責めることなく、配慮ある態度で接しましょう。その人や家族が、一番辛い思いをしているのですから。

2つ目は、「目標を半歩前に定める」ことです。

みなさんのことですから、きっと元旦に今年の目標を立てたと思います。その目標を達成するためには、半歩前に目標を置くことです。

2日・3日に行われました第98回箱根駅伝で、2年ぶり6回目の優勝を果たした青山学院大学。その監督を務めているのが、広島県三原市出身の原 晋（はら すすむ）監督です。原監督は、選手を見極める際に「感性や表情が豊かであるかどうか」を大切にしているそうです。ただ走るスピードが速い選手よりも、人として豊かであり、強さを持つ選手に可能性を感じるそうです。タイムという数値で序列をつけるのは簡単なことですが、原監督はあえて数値以外のところに目を向け、選手の素質を見極めようとしています。

原監督曰く、「ただ黙っておとなしく言うことを聞いている子じゃなくて、コミュニケーションができる子がいい選手になる。陸上はどうしても個人プレーになりがちだけど、それじゃあだめだ。世の中に出たら、ただ自分だけが走ればいっわけじゃないんだから」と、繰り返しミーティングの時に選手に語られるそうです。つまり、「可能性のある選手」とは、「感性や表情が豊かな選手」、そして「自分の言葉をもって表現できる選手」こそ、強いと考えているようです。

さらに、原監督は「伸びる選手とは、目標を手の届く半歩前に定め、それを目指して練習する選手である。非現実的な目標は目標と言わない。目標は、手の届く半歩前に定め取り組む。その繰り返しだ。」と話されていました。自分が定めた目標に向かって、実現可能な「半歩前に」具体的な目標を置き、努力しやり抜く。その繰り返しによって、大きな目標を達成することができるということを、原監督は教えてくださっているように思います。

みなさんは目標を達成するために、何を半歩前の目標に定めますか。今日の新しい気持ちを大切に、半歩前の目標を定め、今日から実際に行動に移していきましょう。

※裏面もあります。

令和3年12月5日に、児童・生徒の動画による意見発表会がありました。本校から、前生徒会執行委員副会長の中西ゆきのさんが参加し、「伝えることの意味」と題してスピーチを行いました。中西さんは、自分の言葉で、豊かな表情を持って聞いている人に思いを伝えました。その結果、この度「優秀賞」を受賞しました。みなさんにもQRコードが配付されていますので、ぜひ観てみてください。

## 「伝えることの意味」廿日市市立佐伯中学校 中西ゆきの

中学校生活3年間の中で、私が自分自身の成長を特に感じるのは、「聞く力」と、「考える力」です。集団で生活していくことは、楽しいことばかりではありません。時には人と意見が食い違ったり、衝突したりしてしまうこともあります。その中で私は、他人の意見や考えをよく聞き、自分の意見や考えにつなげる力を身に付けることができました。

私は現在、生徒会執行委員に所属し、副会長を務めています。佐伯中学校を今よりもっとよい学校にしたい、そのために役に立てる人になりたいと思い、2年生のときに立候補しました。生徒会も、決して楽しいことばかりではありません。中でも忘れられないのが、年間の生徒会スローガンを決めるときのことでした。

学校を引っ張っていく私たち執行委員が、まずはどうあるべきなのかを、「生徒会」という一つの単語から連想していきました。私が連想したのは、「協力」という言葉でした。次にその「協力」から、「お互いの意見を認め合う」という考えができました。そして最終的に、お互いの意見を認め合うためには、「積極的に自分の意見を言わなければならない」という結論になりました。しかし、私にはその考えはありませんでした。なぜなら、私は、自分の意見や考えを言うのが苦手だからです。でも、このメンバーと学校をよくしていきたいという思いから、その場ではたくさんの意見や考えを伝えることができました。すると、皆が自分の意見をつなげて考えてくれたり、逆に誰か一人の意見に対し、ほかのメンバーとつなげたりしていくことができました。自分の意見を誰かが受け取ってくれることが、こんなに嬉しいことなんだと思いました。そして、朝から夕方までメンバー9人で力を合わせて考えたスローガンが決まったとき、達成感を味わうことができました。

今でもまだ、大勢の前で意見を伝えたり、発表したりすることはあまり得意ではありません。でも、必ず誰かが自分の意見を聞いてくれていることを学び、以前ほど苦手ではなくなりました。この力は将来、必ず役に立つと思います。仕事は、自分一人ではできません。誰かが出したアイデアを自分がふくらませたり、逆に私のアイデアを誰かがつなぎ、他の何かに変わったりすることもあります。意見を言うのを恐れるのではなく、変化を楽しむようになりたいと思います。

今、このコロナ禍で、あまり人と直接意見を交わすことはできません。コロナがおさまり、みんなで意見が自分に交わせるようになれば、自分の思いをみんなに伝え、他人の意見をたくさん聞いて、もっと深くまで考えられるように頑張っていきたいと思います。

## 生徒会執行委員のみなさん ありがとう！

生徒会執行委員のみなさん、佐伯中をさらに素晴らしい学校にするために、先頭に立って学校を引っ張ってくれて、本当にありがとうございました。「TEAM まとまれ佐伯魂」をスローガンに掲げ、様々な取組を進めてくれました。生徒玄関での挨拶運動の定例化や、マイスターバッジによる掃除の活性化などは、佐伯中にとって新たな一歩を刻んでくれたと思います。月に1回の生徒暮会では、生徒のみなさんに楽しんでもらおうと、楽しい企画を毎月実施してくれました。陰で支える仕事は大変だったと思いますが、執行委員のみなさんのおかげで今の佐伯中があるのだと思います。みなさんの思いは、新生徒会執行委員のみなさんが必ず引き継いでくれると思います。ありがとうございました！

